

### Ⅲ. 主な意見と課題の整理及び総括

#### 1. 外部講師の主な意見

今年度の研修内容、時間等に関し、外部講師から寄せられた主な意見を整理したものである。

意見等
1. 研修目標に見合った研修内容となっていましたか(受講生の印象、講師を担当しての感想を含む。)
研修目的に見合った研修内容になっていたと思う。 受講生の印象は、初対面の人たち同士で編成された班で、互いに打ち解けるまでにはそれ相応の時間が必要だが、グループ演習の開始後、ただちに役割分担が決まり、実質的な議論が始まり驚いた。課題であった施業案作成についても、班ごとにそれぞれが個性を有しつつも説得力のある計画が制限時間のうちに完成し、能力と意欲の高さを感じた。木材産業と木材市場(マーケット)の歴史を追ってきた講義は、「基礎知識」を謳いながらも、おそらくかなり個人的な内容であったと自認しているが、なぜそのような変わった話をするのかということについても、理解をしている手応えを感じた。
おおむね合っていた。
受講生の年齢層、所属等が昨年度の状況から予想していたものと違い最初は戸惑ったが、受講生の様子を見ながら引き込むことができ、全日程を完遂できた。また、座学、フィールド、グループワークとうまくつながっており、昨年度よりも洗練されていたのではないかと。
研修内容は適切だったと思う。講義、現地での確認、それを踏まえた演習という順序は、目的達成のために効果的だと思う。
昨年度と比較すると、すでに現場での実務経験がある受講生が多かったこともあり、現場で直面している問題について解決方法を得るため、質問や議論の方向性がより具体的だったのが印象的だった。一方で、シカ密度が非常に低い地域からの受講生は、シカの生態や行動特性に関するより広い知識を欲しているようだった。 今年度は多様なバックグラウンドをもつ受講生に最初は正直驚いたが、外部講師陣が現場での実践があるため、受講生のニーズに応えられたと感じた。
目標に見合った内容だった。受講生も活発に質疑をしていたので、興味を持ってもらえる内容と構成だったと思う。
個人的な反省点は、もう少し説明を分かりやすく話したらよかった。受講生に熟練者が多く、熟練者の目線で話が進んでしまい、分からなかった受講生が多かったと感じた。 研修内容は、架線を張っている現地より、これから施業する箇所、または施業が終わった箇所の方が各班の意見も違ってくるのではないかと考えた。
受講生の中に熟練者がいたことでスムーズに研修を進めることができた。また、その熟練者に引っ張られるように全員が意識高く受講できたのではないかと。ただし、中には進行が速すぎてついていけない受講生がいたのではないかと。

<p>2. 講義時間、実習現地等の設定は適切でしたか</p>
<p>意見等</p>
<p>もう少し余裕を持たせた方が受講生も運営側も楽ではないかと感じたが、時間当たりの研修効果を最大とする観点からすれば適切だったと思う。日程からみて詰め込みすぎの印象を持っていたが、受講生に十分な能力と意欲があったことで、それぞれの講義や実習に含ませられた意図や目的がしっかり受け止められており、消化不良に陥ることもなく、十分な研修効果があったのではないかと感じている。運営側に、長年の経験を通じて、受講生の能力や意欲についての見極めがしっかりできていたため、このような高密度・高レベルの研修が実現したものとする。</p>
<p>適切であったが、雨の場合、現地踏査が困難になるので対応方法を検討する必要がある。</p>
<p>適切だったと思う。講師陣からの講評の時間は事前にそれぞれが担当する時間を割り振って調整しておくべきだったと反省している。</p>
<p>おおむね適切だったと思う。ただ、最終日のスタッフミーティングで指摘があったように、エクセルのシミュレーションについては、操作性を向上させるなどして、作業にかかる時間を減少させる改善が必要だと思った。</p>
<p>講義時間と現地実習の時間は適切だったと思う。 グループワーク中、作業時間の配分が難しかったようだった。進行状況の確認をもう少し頻繁にするとよいかも。現地実習時に感じたのが、グループワークでの具体的な作業が把握できていないことだった。最終日のスタッフミーティングで話が出たが、例えば、1日目の講義で具体的な手順について説明し、2日目の現地実習の時に、現地調査と並行してグループワークでのまとめ方の方向性をグループ内で相談してもらおうということ、各班について講師が促す必要があるかもしれない。</p>
<p>受講生からすると、グループワークの時間が短いように感じられたかもしれない。最終日のスタッフミーティングで話があったように、グループワークで取り組む内容を事前に具体的に伝え、研修前にエクセルファイルを送付し慣れておいてもらうなどすると良いのではないか。</p>
<p>講義時間等は適切だと思う。ただ、実習現地等が少し遠かったのではないかと感じた(移動によりスケジュールがずれ込む)。</p>
<p>全体的にスムーズに進み、今回の形式であれば講義時間に関しては最適であったと思う。 研修場所についても、各班が広くスペースを確保できたので、時間、場所ともに最適であったのではないか。</p>

### 3. その他、お気づきの点や改善点等がありましたらご記入下さい

#### 意見等

主催者・受講生にとっても、これ以上の研修日数は難しいと思うので、その制約の中では十分な研修効果が得られていたと感じている。受講生・主催者ともに、意識・練度が高く、スポーツ競技の強化指定選手向けに行われる強化合宿の趣を感じた。

各年度、研修にテーマが設定されることを少し不思議に感じていたが、研修に参加し、テーマが設定されていることがよく理解できた。今年度に関しては、時機を得た、適切なテーマであったと思う。次回以降、どのようなテーマになるのか楽しみだし、もし次回以降も機会があれば、自分もそのテーマをきちんと意識した講義内容にしていきたいと思う。

自分の反省として、元々タイトなスケジュールなので、講師が講義時間を厳守することが重要と感じた。

研修のテーマ設定の段階から関わっていないので何とも言えないが、どのようなニーズがあって内容を設定したのかが分からない。テーマの路網といってもニーズは様々であり、講師に内容を丸投げしている感もあり、いつまで誰を対象に行うのかよく分からない。全体として研修の整合、統合が必要ではないか。

受講生が感じている課題解決につながることを本研修に期待していると思うので、研修時間が限られる中だが、現在感じている課題や取り組んでいることについて発表してもらい、情報共有するのも良いのではないかと思った。

今回は経験値の高いベテランの受講生がいたことでスムーズに進めることができたが、その方々がいなかったと仮定すると、時間に余裕は生まれていなかったと思う。

研修の目的として、経験が少ない等の現場未経験者が理解を深められたのかどうかは不安が残るものだった。どちらが正しいか判断が難しいとは思いますが、今後の課題ではないか。

## 2. アンケート結果の概要(ブロック別)

アンケートは受講生全員を対象とし、研修成果の確認と今後の研修運営に役立てることを目的に実施した。本研修に対する理解度、役立ち度、全体の満足度、運営評価について、ブロック別の集計結果をグラフ化し、そのうち、「森林総合監理士資格の有無」、「研修内容の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」についてはブロックごとに詳細結果を取りまとめた。

なお、ブロックごとにテーマ、カリキュラムなどが多様であるため、ブロック別の結果を示しているが、ブロック間の単純な比較ではなく、ブロックごとの傾向や課題の明確化を意図している。また、今後さらに良い研修にしていくためには、各ブロックで評価の高かった点、改善すべき点について、全ブロックで共有することが非常に重要だと考える。

アンケートの回収総数は、修了者 71 人中 71 人(回答率 100%)であった。

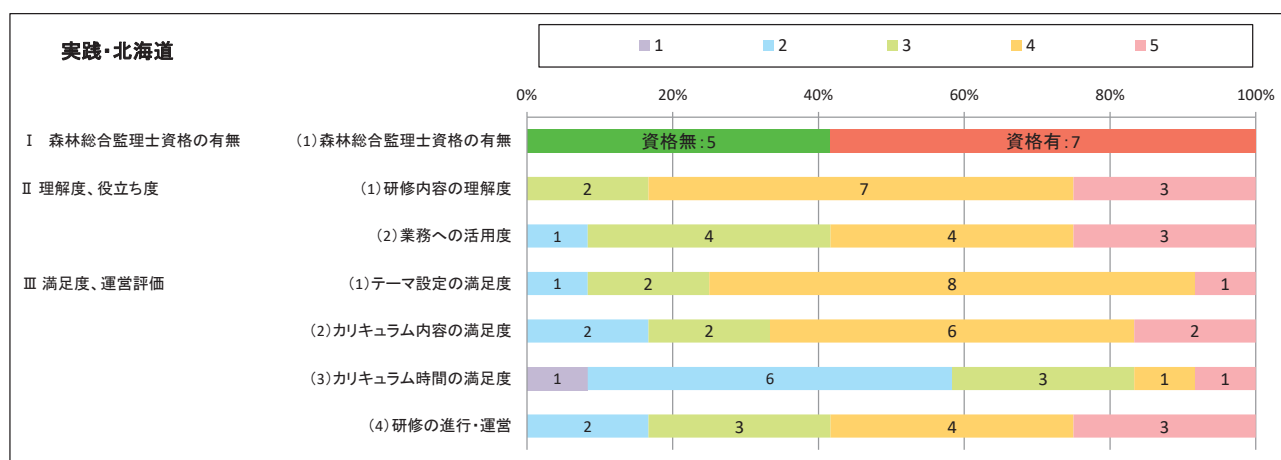
アンケートは、「森林総合監理士資格の有無」は 1 (資格あり)、2 (資格なし)とし、その他の各項目は 5 段階評価で「研修内容の理解度」は 1 (理解できなかった)から 5 (理解できた)まで、「業務への活用度」は 1 (活用できない)から 5 (活用できる)まで、「テーマ設定の満足度」と「カリキュラム内容の満足度」、「カリキュラム時間の満足度」は 1 (満足度が低い)から 5 (満足度が高い)まで、「研修の進行・運営」は 1 (良くなかった)から 5 (良かった)までの評価で実施した。

「森林総合監理士資格の有無」の状況は、各ブロックで異なっており(以下、(1)～(6)のブロック毎を参照)、各受講生の評価を判断する上でも参考にした。

新型コロナウイルス感染防止対策を取り、全ブロック 2 泊 3 日で実施した。

### (1)北海道ブロック

テーマ: 成熟した高齢級人工林における森林づくり～伐採と更新方法を考える～



#### ①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が 58%、資格なしが 42%であった。

#### ②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は 5 と 4 の回答が 83%を占め、昨年度(H31 : 100%)より評価が下がったが、過半数を超えていた。「かなり興味を引いて聞くことができた」、「分かりにくい点は少なかった」、「一部難しい部分もあったが理解できた」などのコメントが寄せられ、おおむね研修内容が理解されたことがうかがえる。

#### ③業務への活用度

「業務への活用度」は 5 と 4 の回答が 58%と、昨年度(H31 : 88%)より下がったものの、「森林総合監理士に求められていること、心構えを再考する良いきっかけとなった」「コンテナ苗、林産

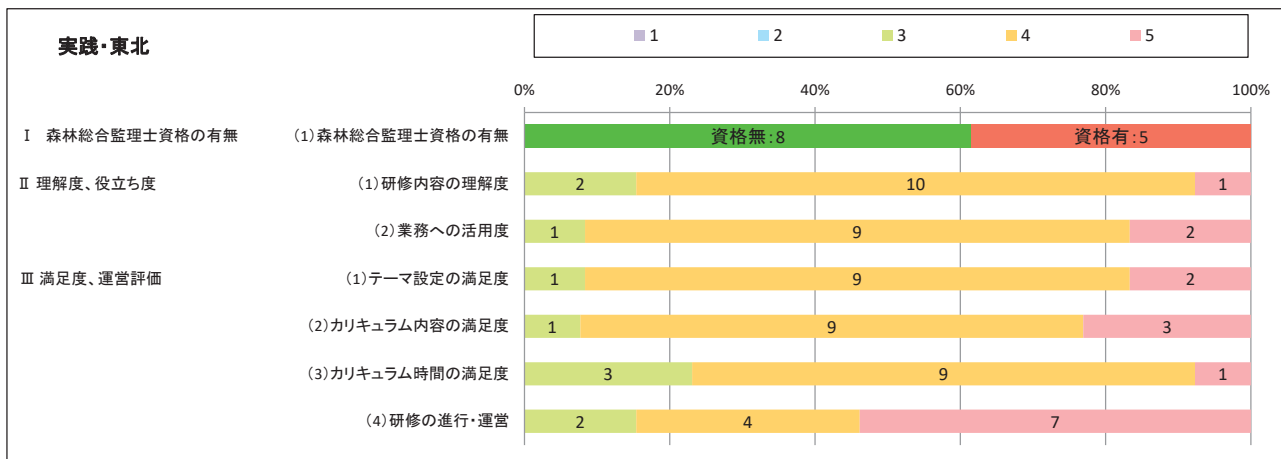
の情報などに活用できる」など前向きな意見も多く寄せられた。活用度が3以下の回答からは「考え方の補強ができた」、「研修の前提条件が実態と異なる」などの意見があった。

#### ④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が75%と昨年度(H31:88%)より若干減少した。「伐採と更新方法は最重要テーマ」「高齢級人工林は全道的に問題となっている」「人工林施業は常に取り組みざるを得ない課題」等のコメントが多く寄せられ、受講生の要望に応えるテーマであったと考えられる。

### (2)東北ブロック

#### テーマ: 路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査



#### ①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が38%、資格なしが62%だった。

#### ②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答で85%を占め、高い理解度を得た。「道の考え方や便利なツールの紹介があり、有意義だった」、「作業道の路線選定を行うだけでなく、CS立体図を用いて、また、踏査の際にはスマホを利用という新しい技術を勉強することができた」等の意見が寄せられ、新たな技術やツールを用いた実践的な内容によりICT活用への関心や理解が深まったことがうかがえる。

#### ③業務への活用度

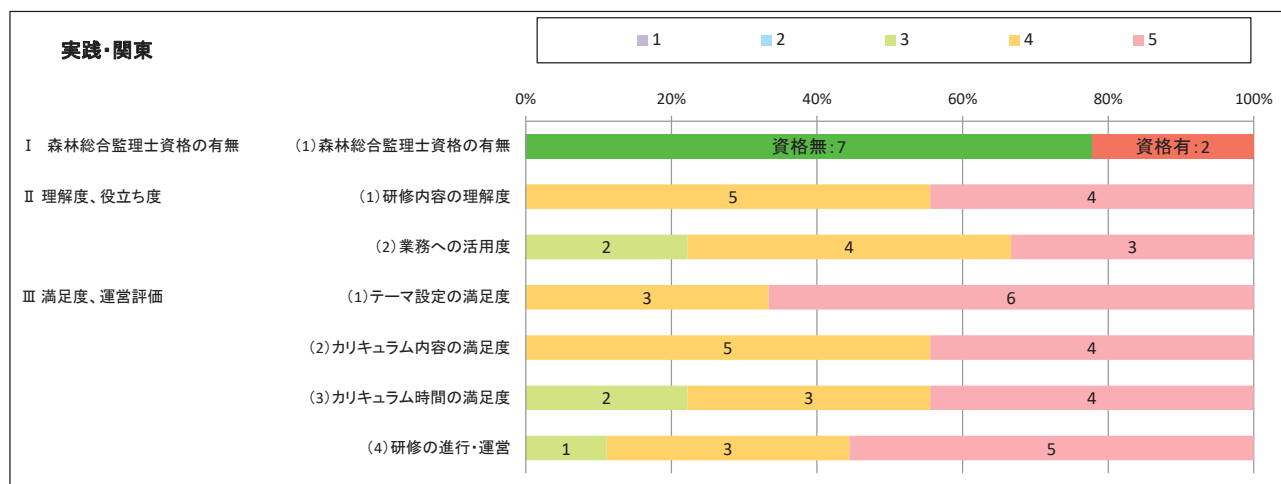
「業務への活用度」は5と4の回答で92%と非常に高い評価を得た。「省力化につながる技術で広く普及していきたい」、「GISを活用すれば通常業務の幅が広がると感じた」等、活用に積極的な意見が多数寄せられた。

#### ④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」も5と4の回答で92%と非常に高い満足度となった。「興味があり、現場で求められるタイムリーなテーマだった」、「デジタルデータとデバイスの併用は非常に説得力があると感じた」等の意見が寄せられた。受講生の需要や関心が高いテーマ設定と研修内容だったことが高い評価を得たと考えられ、研修内で取り扱ったICT活用に特化した内容の研修を求める意見も寄せられた。

### (3)関東ブロック

テーマ:主伐・再生林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について



#### ①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が22%、資格なしが78%だった。

#### ②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が100%を占め、全員が高い理解度を示した(H31:92%)。「シカ対策の重要性や生態などがよく分かった」、「講師陣の話は分かりやすく質問に対する回答も明確だった」といったコメントが多く寄せられ、研修内容の理解の向上がうかがえる。

#### ③業務への活用度

「業務への活用度」は、5と4の回答が78%で、昨年度(H31:75%)と同等だった。「森林総合監理士として知識の補強ができた」、「今後の森林組合指導等に役立てたい」といった前向きな意見が寄せられた。

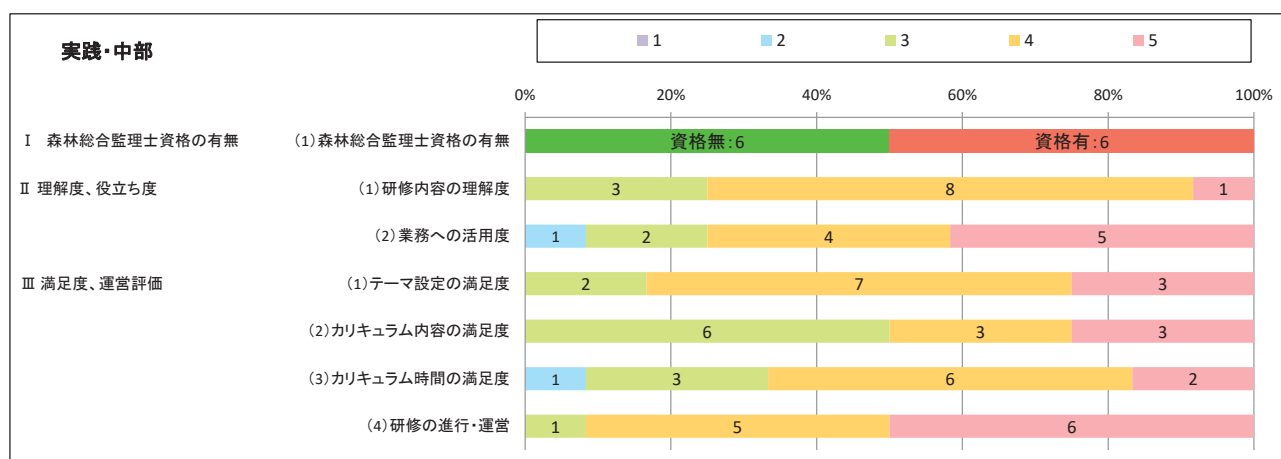
#### ④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が100%で、理解度同様に全員の満足度が高かった。「近年の重要な課題である」、「これからの林業には必要な知識だ」などのコメントが寄せられ、今後、森林管理を進めていくうえで重要なテーマであることがうかがえる。



## (4)中部ブロック

### テーマ：伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通



#### ①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が50%、資格なしが50%だった。

#### ②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が75%を占め、昨年度(H31:83%)より若干低くなったが、「架線集材について何の知識もなかったが、講師の方がていねいに教えてくれた」、「主伐・再造林の基本を理解することができた」といったコメントが寄せられた。

また「1班に1人講師が付き質問しやすかった」との感想も寄せられた。

#### ③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が75%を占め、こちらは昨年度(H31:72%)とほぼ同様であった。「事業体との施業方法検討の引き出しが増えた」、「架線系を選択肢にできる」といったコメントの他に、「架線現場の設計指導・巡回指導に活用できる」といった声が寄せられた。

#### ④テーマ設定の満足度

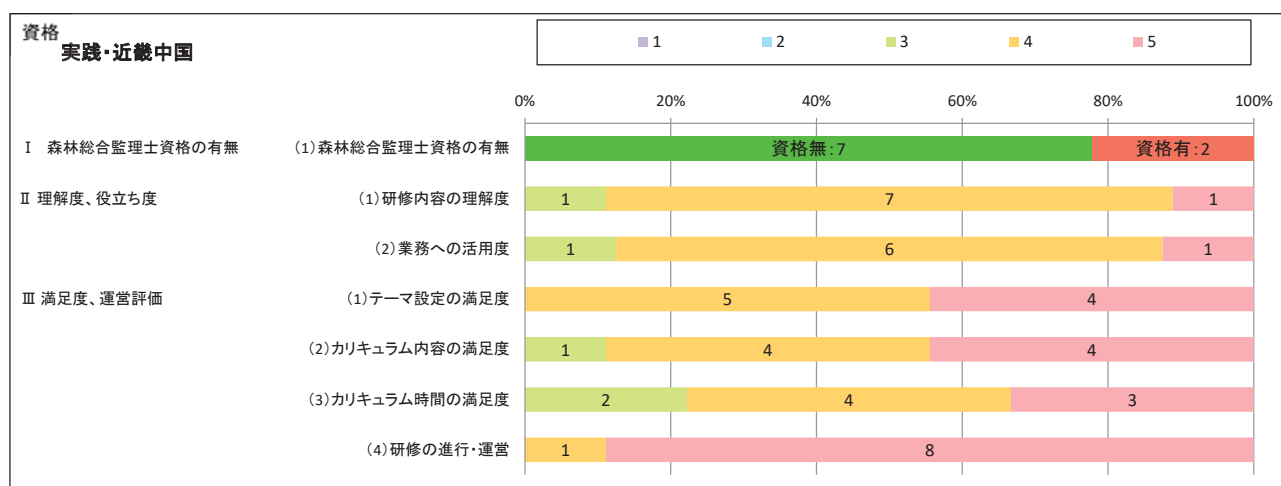
「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が83%で、昨年度(H31:77%)より若干高くなった。

「架線システムの一貫施業をもう少し掘り下げてほしかった」との要望もあったが、「販路まで見据えた一貫施業は地元でも要望が多く非常にありがたかった」、「馴染みのない架線集材を体験できて良かった」、「造林経費の削減面からも良かった」など満足する受講生が多かった。

なお、受講生12名のうち3名は他ブロックからの参加であり、テーマ(伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通)に惹かれた受講生も多かったものと思われる。

## (5)近畿中国ブロック

### テーマ：一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業



#### ①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が22%、資格なしが78%だった。

#### ②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が89%で、昨年度(H31:93%)とほぼ同等で「現地で実際に実物を見て説明を受けることができる等理解が進みやすかった」、「知識、経験の少ない中での参加だったが、広葉樹林化等多くのことを学べた」などのコメントが寄せられた。

#### ③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が88%で、昨年度(H31:53%)より大幅に上昇し、「新たな森林管理システムの候補地等検討を行う際に活用していける」というコメントに代表されるように、直接的に業務への活用度の高さがうかがえる意見が寄せられ、本研修のねらいに沿った成果がみられた。

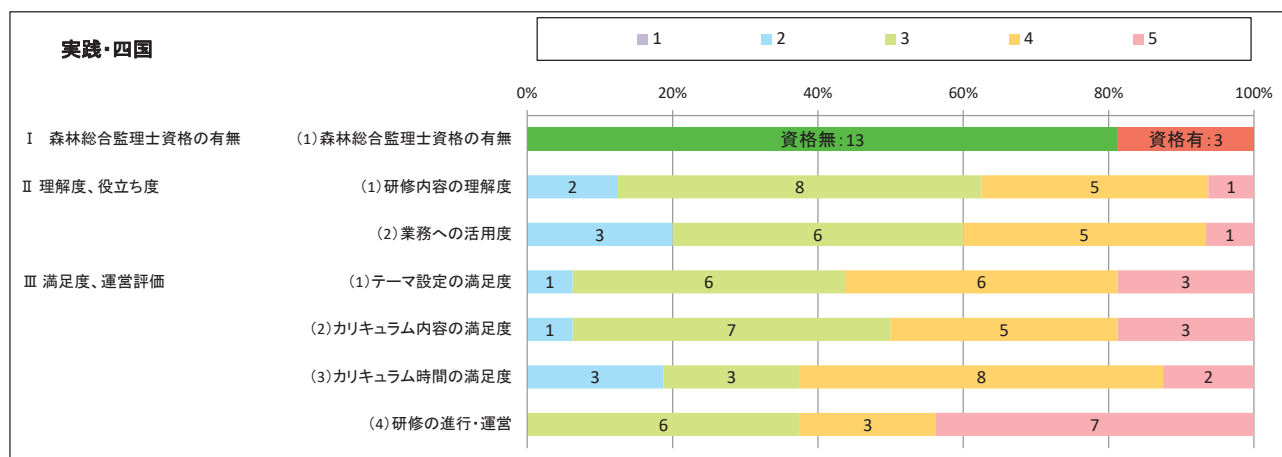
#### ④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が100%で、昨年度(H31:80%)より上昇し、一昨年度から段階的に上昇してきている。「地位の違いがよく分かる現場を見ることができ、地位の違いを実感できた」、「目標林型の検討に大いに参考になった」など、今まさに必要とされているテーマと評価された意見が多く寄せられた。



## (6)四国ブロック

テーマ：地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について



### ①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が19%、資格なしが81%だった。

### ②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が38%と他ブロックと比較し若干評価が低かったが、「架線設置計画の概要を理解することができた」といったコメントが寄せられ、3以下の評価でも「架線集材については初めての研修であったので難しい時間もあったが概要については理解できた」、

「搬出の計画は大変難しかったがとても勉強になった」といったコメントもあり、架線の経験がない受講生からもおおむね良い評価であった。

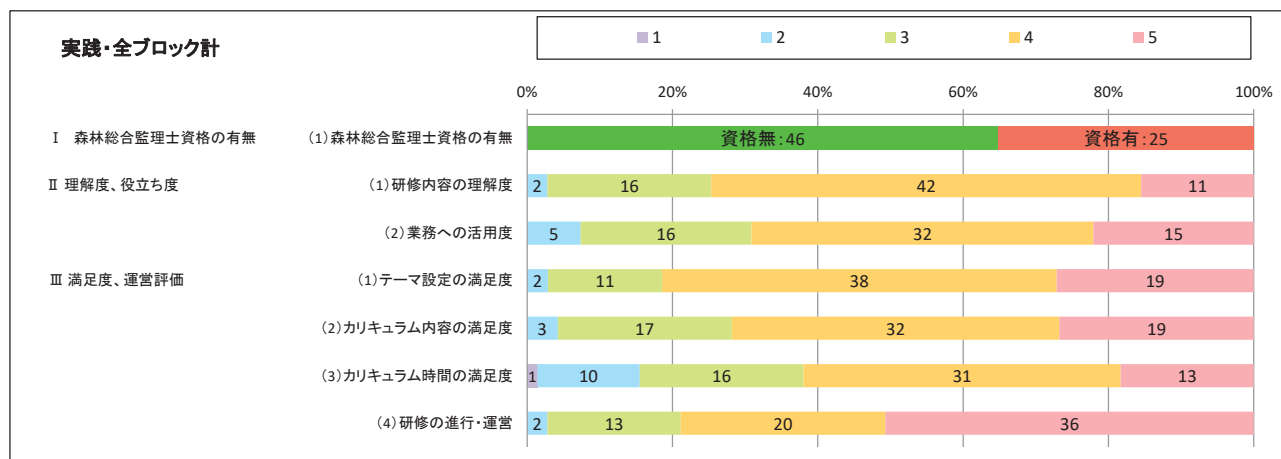
### ③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が40%で、昨年度(H31:55%)より割合が若干低くなったが、「市町村の林務担当者に森林の構想を示すときに作業路網や作業システムの提案をする際に活用できる」、「間伐・皆伐を発注、施行する機会に集材手法を考え応用していきたい」といったコメントが寄せられ、また、3以下の評価では「活用できるよう数をこなしたい」、「勉強すれば活用できそう」といった前向きなコメントが寄せられた。

### ④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が56%と昨年度(H31:92%)より低くなったが、「急峻な奥地人工林対策として有効」、「木材生産の実践を考えるうえで役立つ」といったコメントが寄せられ、受講生にとって有効なテーマであったことが推察される。

### 3. アンケート結果の概要(全体)



#### (1) 森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は各ブロックさまざまだが、北海道と中部は森林総合監理士が約半数を占め、その他のブロックは約2～3割が森林総合監理士だった。

#### (2) 研修内容の理解度、業務への活用度、テーマ設定の満足度

実践研修全体の評価として、全ブロックの計をみると、5と4の回答は、「研修内容の理解度」75% (H31: 88%)、「業務への活用度」69% (H31: 72%)、「テーマ設定の満足度」81% (H31: 84%)と昨年度と比べ全ての項目で若干評価は低くなった。また、ブロックごとでは、「研修内容の理解度」38～100% (H31: 55～100%)、「業務への活用度」40～92% (H31: 53～90%)、「テーマ設定の満足度」56～100% (H31: 78～92%) (※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と、昨年度と同様ブロックによってバラつきがあった。

##### ① 研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は、5と4の回答で7割以上を占めるブロックがほとんどで、講師陣の話が分かりやすかったことや、実践的な内容により理解が深まったとうかがえる。特に関東が高い評価であった。一方、3以下の回答が多かったブロックについては、カリキュラム内容に関する知識がないうえでの参加だったといった自身の知識・経験不足を述べるコメントが少なからず寄せられた。

##### ② 業務への活用度

「業務への活用度」は、例年、各ブロックで研修テーマが異なっていることからブロックによって評価にバラつきが出るが(※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)、今年度も同様の結果だった。5と4の回答では、「今後の森林組合指導等に役立てたい」、「新たな森林管理システムの候補地等検討を行う際に活用していける」などのコメントに代表されるように、直接的に業務への活用度の高さがうかがえる。また、3以下の回答からも「考え方の補強ができた」、「森林経営計画の計画立案に一部参考にできる」といった意見があり、今後の業務に生きる内容であったことがうかがえた。東北と近畿中国は高い評価であった。

##### ③ テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は、5と4の回答で7割以上を占めるブロックがほとんどで「近年の重要な課題である」、「現場で求められるタイムリーなテーマだった」といったコメントが多く寄せられ、受講生にとってタイムリーかつ必要とされるテーマであったことが評価につながったと推察される。特に関東は5の割合が6割以上を占め、高い満足度だった。

### **(3)カリキュラム内容・時間の満足度**

#### **①カリキュラム内容の満足度**

「カリキュラム内容の満足度」は、5と4の回答で72%(H31:82%)と、昨年度より若干評価が下がったものの、おおむね高評価であった。しかしながら、ブロックごとで見ると50~100%(※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)とブロックによってバラつきがあった。特に関東と近畿中国の評価が高く、「分かりやすく様々な箇所で応用が効きそう」、「山づくりの今後を考える上でとても参考になった」といったコメントが寄せられ、今後の業務に役立つ内容だったことが高評価につながったと推察される。一方、3以下の評価からは、次項目「②カリキュラム時間の満足度」にも関連するが、現地実習地が遠方だったことにより現地実習の時間不足を感じた受講生がいたことや、より掘り下げた話が聞きたかったという要望の声が寄せられた。

#### **②カリキュラム時間の満足度**

「カリキュラム時間」に対する満足度は、5と4の回答が62%(H31:67%)で、昨年度とほぼ同様であったが、ブロックごとで見ると17~78%(※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)とバラつきとともに、ブロックによって大きな差が出た項目となった。5と4の回答が多いブロックからは、「短い時間の中でも濃い内容だった」、「内容が充実し時間配分も負担が少なく良かった」といったコメントが寄せられ、2泊3日の研修日程の中で、濃密な研修時間だったことがうかがえた。一方、評価の低いブロックでは、例年課題にあがっているが、「移動時間が長く、研修も詰め込み過ぎている気がした」、「グループ討議の時間が短い」といったコメントが見られ、本研修は、演習・検討後に各班から発表を行う構成にしていることから、現地実習と検討時間の確保がどれだけできるかが受講生の満足度にもつながり、引き続き検討課題と言えるのではないかと。

#### **(4)研修の進行・運営**

「研修の進行・運営」は、5と4の回答が79%(H31:84%)で、昨年度と同様、高評価だった。ブロックごとで見ると58~100%(※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と、ブロックによってバラつきはあったが、全ブロックから「間延びせず、メリハリのあるスムーズな進行が参考となった」といったコメントがあり、滞りなく進行されたことがうかがえた。他方、3以下のコメントからは、「後から補足することが多かった」、「パソコンへのデータ取り込み等は先にしてほしい」といったカリキュラムを進行するうえで、段取りや事前準備の重要性を改めて感じるコメントもあり、今後も注意して進行していくべきである。

#### **(5)その他感想、来年に向けての提案など**

本研修はブロックごとに取り扱う研修テーマが異なっていることから、各ブロックさまざまな感想等が寄せられたが、今回の研修で得られた知識を役立てたいといった前向きな意見が多く見られた。また、毎年寄せられる意見だが、「様々な立場の人からの話や話し合いの場を通して大変刺激となった」、「行政、民間の合同開催は非常に刺激になった」といったコメントに代表されるように、講師だけに限らず、受講生同士の意見交換・ディスカッションを通して、多くの学びや刺激があったことがうかがえる。多様な属性や現場経験を持った受講生が集うことは、本研修のメリットと言え、今後も引き続きバランスの良い受講生の構成で研修を続けていくことが重要である。

#### 4. 運営改善報告書の概要

当日運営補助者から研修ごとに作成された運営改善報告書の概要は、以下のとおり。

ブロック	研修テーマ・カリキュラム	講義・演習・現地実習	その他
北海道	特記事項なし。	・予定時間を超過した講義があり(少し詰め込みすぎた)、内容を含め検討が必要。講義内容は、外部講師との兼ね合いについても考慮する。	特記事項なし。
東北	・日々の業務に関連付けるなど、もっと興味を持たせられるように研修内容等を工夫していく必要がある。	・受講生から、GISの操作時間がもっとほしかったとの声があった。	・新型コロナウイルス感染対策について、グループワークでの距離が近くなってしまうことなど対策が難しい点があったが、マスク・フェイスシールドの着用の徹底、こまめな消毒の徹底を引き続き呼び掛ける。
関東	・研修時間の効率を考慮し、事前学習実施の可否について意見があった。	・2日目演習時の計画シミュレーション作成に時間がかかり過ぎたため、計画シミュレーションの簡素化を検討する。	・研修全体のふりかえり(最終日のふりかえりシート)はあったが、3日目の研修のふりかえりシートがないため、各班の発表などに関する意見や感想がないという意見があった。
中部	・パソコンが各班1台のため、情報共有が難しい。	・ドローンを使ったデータがあると理解しやすかった。編集等作業に時間がかかるが検討する。	・空調機器の音が大きく気になった。
近畿 中国	・各班の発表をKP法で行っているが、パワーポイントに慣れている人の方が多いので、そちらでもよいのではないかと意見があり、検討する。	・天然力を活用した森づくりの説明箇所、ヤードが狭く、一班ごとの説明となり、各班の質問を共有できなかった。全ての班がそろった時点で質疑応答を行い、共有できるようにする。	・研修資料に通し番号を記載してほしいという意見があったが、資料作成者が異なるため、印刷時間に余裕がない場合は難しい。図面にも資料番号を入れることで、参照箇所・頁を指定しやすくなるよう徹底する。
四国	特記事項なし。	・現地実習地が変更になり、現地までの移動時間(往復	・現場等の経験が豊富な受講生が多く、また、年齢・

		約4時間)が長いことから、研修日程内でのカリキュラム実施がタイトになった。	経験年数等の幅が広がったため、演習説明などで標準をどこに設定するか等、外部講師・内部スタッフ・運営側も対応が難しかった。
--	--	---------------------------------------	--------------------------------------------------------------

## 5. 実践研修の課題の整理

本研修は森林管理局が大きな役割を果たす中で、各ブロックともほぼカリキュラムどおりに研修を実施することができた。

本研修は、市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的とし、森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局署職員、団体職員等を対象に、全ブロック2泊3日で実施した。

受講生の平均年齢は昨年とほぼ同じであった(H31: 43.0歳→R2: 45.1歳)。

以下、受講生アンケート、各ブロックの運営改善報告書から、主な課題を抽出・整理した。

### (1) ブロック別の課題

ブロック	アンケート結果を通じての課題	運営改善報告書を通じての課題
北海道	・「カリキュラム時間の満足度」の評価が低く、「グループ討議の時間が短い」、「質問時間が少なかった」といったコメントが寄せられ、時間配分の検討が必要である。	・予定時間を超過した講義があり(少し詰め込みすぎた)、内容を含め検討が必要。
東北	・全体的にアンケートの評価は高く、今後の業務に役立つツールの紹介が組み込まれ、関心や需要が高いテーマだったことが高評価につながったと推察される。	・受講生から、GISの操作時間がもっとほしかったとの声があった。
関東	・総じてアンケートの評価が高く、「近年の重要な課題である」といったコメントに代表されるように、特にテーマ設定の満足度が高かった。	・2日目演習時の計画シミュレーション作成に時間がかかり過ぎたため、計画シミュレーションの簡素化を検討する。
中部	・「発表準備の時間をもう少し長く」、「検討内容が多い」といったコメントが寄せられ、カリキュラム内容と時間のバランスは今後も検討が必要である。	・演習の流れをイメージし、動画も含め、どういった資料が演習に必要なか、今後も検討が必要である。
近畿中国	・昨年度は「カリキュラム時間の満足度」の評価が若干低かったが、今年度は改善され、総じてアンケートの評価は高かった。	・現地実習地での説明において、現場が狭かったことから、一班ごとの説明となった箇所があり、各班の質問を共有できなかった。全ての班が揃った時点で質疑応答・共有ができるよう改善が必要。
四国	・架線集材というコアな内容を扱っていることから、「研修内容の理解度」と「業務への活用度」の評価が若干低かった。	・現地実習地までの移動時間(往復約4時間)が長いため、研修日程内でのカリキュラム実施がタイトだったことから、研修日程と合致したカリキュラム内容を検討する必要がある。

### (2) 全体を通しての課題の整理(アンケート結果を通じて)

アンケートは、「森林総合監理士資格の有無」以外は、全項目5段階評価で実施した。「研修内容



の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」は、5と4の割合が38～100%とブロックによって非常にバラつきがあった。今まさに課題となっているテーマやタイムリーな課題を扱ったブロックは評価が高い傾向があった。他方、3以下の回答であっても、「考え方の補強ができた」、「森林経営計画の計画立案に一部参考にできる」といった前向きな意見が寄せられている。また、低い評価の理由として、自身の知識・経験不足を述べる意見が少なからず寄せられた。技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的としていることから、今後も森林総合監理士等として指導・助言などを行っていく上で、実践的なテーマ・内容で実施することが重要である。

「カリキュラム内容」に対する満足度は5と4の割合が50～100%とブロックによってバラつきがあった。また、「カリキュラム時間」に対する満足度も5と4の割合が17～78%と、ブロックによってバラつきがあり、かつブロックによって大きな差が出た項目だった。例年あがる意見だが、ブロックによって「現地踏査・検討時間が短い」などのコメントが見られ、カリキュラム内容に現地実習と検討・演習時間をどのように組み込んでいくか、また、時間配分を引き続き検討・改善していくべき課題と言える。

「研修の進行・運営」は5と4の割合が58～100%でバラつきがあったものの、全ブロックからスムーズな進行であったといったコメントが寄せられ、おおむね問題なく、進行・運営されたことがうかがえる。今後も、カリキュラムや講義・演習の中で盛り込むべき内容を検討し、こういった資料やデータ等を準備して研修を実施するか、ブラッシュアップしていくことが重要である。

### **(3)全体を通しての課題の整理(運営改善報告書を通じて)**

各ブロックでカリキュラムや現地実習地までの移動時間等が異なるため、今年度の課題にそれぞれ違いはあるが、受講生が地域に戻って指導や助言を行う際のヒントになるよう、各ブロックのテーマに合った講義・演習とし、また限られた時間内での研修であることから、進行の流れを止めることのないよう、資料内容や伝え方の工夫をしていくことが重要である。

## 6. 総括

### (1)全体設計・テーマ・カリキュラム

本研修は、市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的としている。そのため今年度も森林総合監理士を受講対象としたが、森林総合監理士の受講者数はブロックによってバラつきがあり、森林総合監理士の参加率は19～58%と昨年度(H31:20～94%)より低く、研修受講者数については、新型コロナウイルスの影響から、各ブロックの受講者数が9～16名と若干少ないブロックもあった。また、ブロックによっては、現場経験が豊富な民間事業者の受講生の割合が多いブロックがあり、演習の説明レベルの標準をどこに設定するか等、対応が難しいブロックもあった。本研修の目的及びカリキュラム内容の周知、受講生の選定、受講者数の確保について検討が必要であると考えます。

テーマ設定については、ブロックごとに地域の特性や現状及び都道府県のニーズ・意見を踏まえて設定しているが、ブロックによって評価にバラつきがあり、今まさに課題となっているテーマやタイムリーな課題を扱ったブロックは評価が高かった。今後も地域の実情や課題に即し、森林総合監理士等として市町村へ指導・助言などを行っていく上で、実践的かつ業務で活用できるテーマを選定することが重要である。

カリキュラム内容・時間の評価についてもブロックによってバラつきがあった。評価が低いブロックについては例年あがる意見だが、本研修は演習がメインの構成となっていることもあり、「現地踏査・検討時間が短い」といったコメントが寄せられ、限られた時間内に詰め込み過ぎないように、現地実習や演習をどのように組み込むことができるかは引き続き検討が必要である。また昨今のICT化に伴い演習にパソコンを取り入れるブロックも増えていることから、演習のシミュレーションは重要である。

### (2)研修運営

今年度は新型コロナウイルスの感染状況により、当初の実施予定日より開催を遅らせたブロックもあったが、6ブロックとも開催することができた。また当初計画では会場定員の少なかった関東、近畿中国ブロックでは近隣のより広い会場へ変更し、全ブロックとも現地実習でのバスの乗車人数調整や台数を増やす等、対策を講じた。室内においても、換気や日々の検温、マスクの着用、マイクや備品等の消毒を徹底し、受講生や講師・関係者等が安心して研修を実施できるよう努めた。受講生等研修参加者は、研修2週間前から自身の「体温・体調等記録用紙」を記入し、最終日の提出とともに、受講後2週間以内に体調の悪化が生じた場合は統括事務局へ連絡することとしたが、研修中及び後日においても参加者からの連絡はなかった。その他にも、受講生、講師・関係者等が必要としていることを事前に想定し準備を行った。

本研修では、テーマやカリキュラムは森林管理局が作成した。統括事務局ではブロックごとに担当者を配置してブロック事務局の担当者とチームをつくり、研修実施に向けた森林管理局の研修担当官と連絡・調整を密に図った。また、統括事務局は、受講生・外部講師への連絡・調整、安全管理マニュアルの作成、タイムスケジュールの確認、資料印刷等を行うことで、受講生が研修に集中できる環境を整えた。

研修当日は、森林管理局が進行役を務め、ブロック事務局スタッフと連携して運営した。過年度の実践研修の経験や知識が蓄積されていることから、おおむねスムーズに運営できたが、研修担当者の経験等により差異が生じることもあることから、後継者育成、引継ぎ等の工夫は引き続き重要な課題であり、今後も各ブロックでの良い点や工夫点を全ブロックで共有し、良い点は取り入れて

いくことも円滑な研修運営につながると考えられる。今後もさまざまなことを想定した運営準備をしていくことは、全ブロック共通して意識する事項である。

### **(3)おわりに**

現地検討及び討議を通じて現場レベルでの課題解決策を共有する研修を実施したが、外部講師・森林管理局講師からだけでなく、県職員や国有林職員、民間受講生といった多様な属性の受講生同士が意見交換し、お互いからも学びのあるカリキュラム構成となっている。今年度見えた課題をふまえ、ブラッシュアップしていくことが重要であり、地域のニーズに合った研修を実施していくことが森林総合監理士等の技術者の技術水準の維持・向上につながると期待したい。